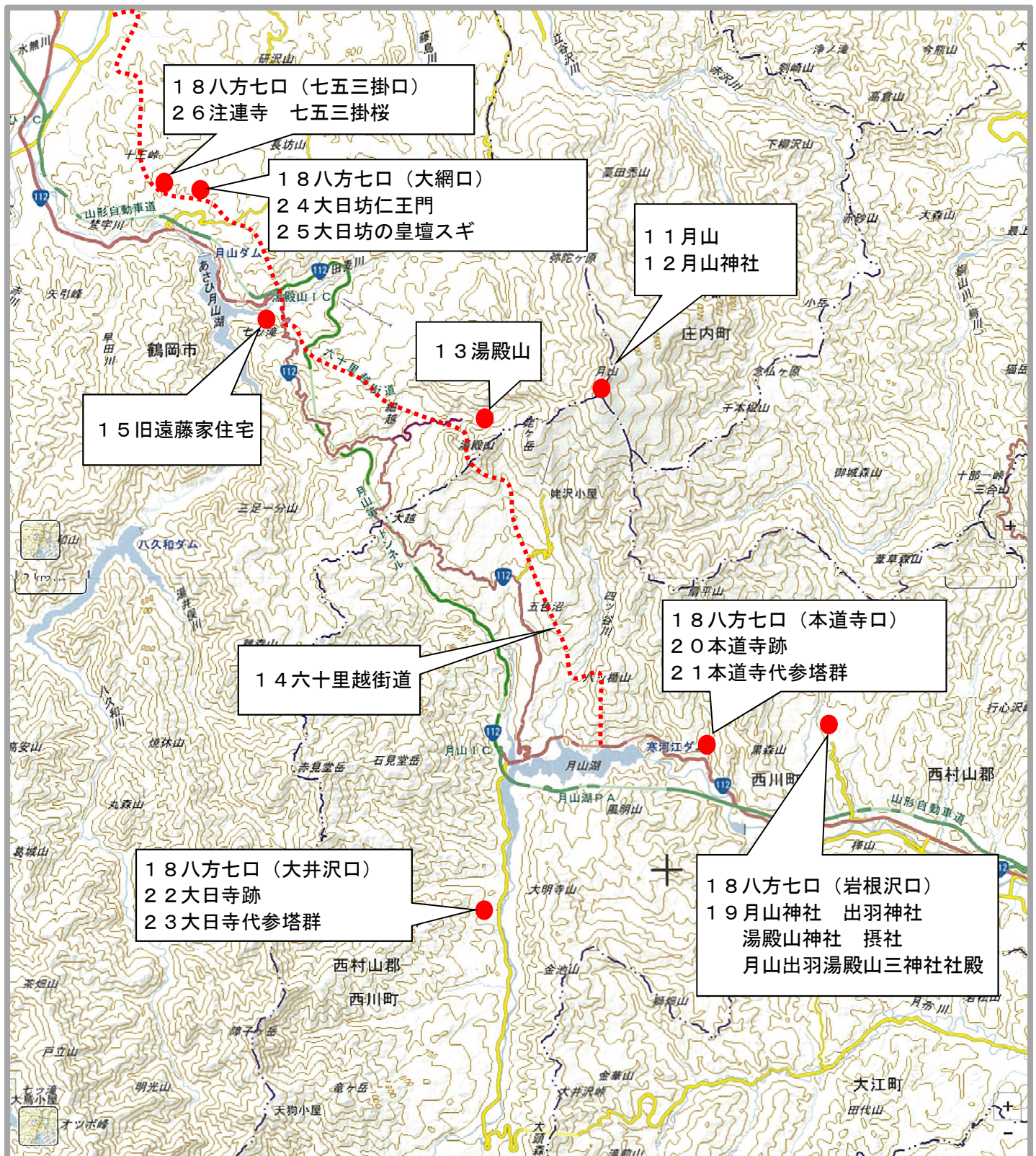


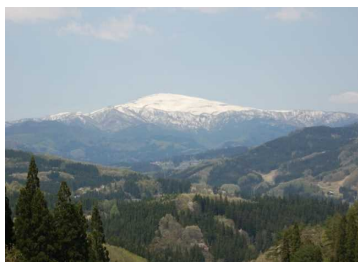
① 申請者	◎山形県 (鶴岡市、西川町、庄内町)	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
<p>自然と信仰が息づく『生まれかわりの旅』</p> <p>～樹齢 300 年を超える杉並木につつまれた 2,446 段の石段から始まる出羽三山～^{でわさんざん}</p>			
④ ストーリーの概要 (200 字程度)			
<p>山形県の中央に位置する出羽三山^{でわさんざん}の雄大な自然を背景に生まれた羽黒修験道^{はぐろしゅげんどう}では、 ^{はぐろさん}羽黒山は人々の現世利益^{げんぜりやく}を叶える現在の山、^{がつさん}月山はその高く秀麗な姿から^{それい}祖霊^{しず}が鎮ま ^{ゆどのさん}る過去の山、湯殿山^{いのち}はお湯の湧き出る赤色の巨岩が新しい生命の誕生を表す未来の山 と言われます。</p> <p>三山を巡ることは、江戸時代に庶民の間で『生まれかわりの旅』として広がり、地 域の人々に支えられながら、日本古来の、山の自然と信仰の結び付きを今に伝えてい ます。羽黒山の杉並木につつまれた石段から始まるこの旅は、訪れる者に自然の靈気 と自然への畏怖^{いふ}を感じさせ、心身を潤し明日への新たな活力を与えます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">     </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <p>羽黒山の石段と杉並木</p> <p>月山</p> <p>湯殿山の滝行を行う御滝</p> <p>松例祭の大松明行事</p> </div>			
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名	山形県教育庁文化財・生涯学習課 文化財保護専門員 原田 伸子 企画調整主査 安藤 紀子		
電 話	(023) 630-3341	FAX	(023) 630-2874
E-mail	ybunkazai@pref.yamagata.jp		
住 所	山形市松波二丁目 8 番 1 号		

構成文化財の位置図 3



ストーリー

『生まれかわりの旅』のはじまり



出羽三山の主峰月山

出羽三山は、山形県の中央にそびえる羽黒山(414m)・月山(1,984m)・湯殿山(1,504m)の総称であり、月山を主峰とし羽黒山と湯殿山が連なる優美な稜線を誇ります。

およそ1,400年前、崇峻天皇の御子の蜂子皇子が開山したと言われる羽黒山は日本有数の修験道の聖地です。修験道とは自然信仰に仏教や密教が混じり生まれた日本独特の山岳信仰です。羽黒修験道では三山の特徴から、羽黒山は現在の幸せを祈る山(現在)、月山は死後の安楽と往生を祈る山(過去)、湯殿山は生まれかわりを祈る山(未来)と見立てられました。生きながら若々しい生命をよみがえらせることができるというその信仰は、江戸時代に庶民の間で現在・過去・未来を巡る『生まれかわりの旅』(羽黒修験道では「三関三渡の旅」と言う。)となって広がりました。

「現在の世を表す山」～羽黒山～

羽黒山は、蜂子皇子が現在の世を生きる人々を救う仏(聖観世音菩薩)を祀ったと伝わり、出羽三山の中で最も低く村里に近い、人々の現世利益を叶える山であつたことから「現在の世を表す山」と言われます。



国宝 羽黒山五重塔

羽黒山の入り口、随神門から山頂までの約2kmの参道は、日本屈指の段数を誇る2,446段の石段と両側に高さ太さを競うように立つ樹齢300～500年の杉並木が続きます。参



羽黒山の石段と杉並木

道を進むとまず、開山当時から人々を見守り続ける樹齢1,000年を超える爺スギと、色彩を施さない素木造りの国宝五重塔が現れ、長い年月の風雪に耐えて凜と佇む姿は、見る者の心を捉えます。そして清々しい空気と静寂の中、石段を一段一段登り進めるうちに身も心も洗われて、深く自分を見

つめ直すことができます。山頂にある三神合祭殿は豪雪にも負けぬよう厚さ2.1mの茅葺屋根を持ち、羽黒山の祭神とともに、雪が深く冬期間の参拝ができない月山と湯殿山の祭神を合祀しています。人々はここで、国家安寧、五穀豊穰、諸願成就などの現在の世での願いを託すとともに『生まれかわりの旅』の成就を願い、月山、湯殿山を目指して旅を続けます。

「過去の世を表す山」～月山～

この地域では、太古の昔から、高くそびえる山に祖先の霊が登るという信仰があります。出羽三山で一際高く美しい姿を持つ月山は、「祖霊が鎮まる山」として崇められ、羽黒修験道では死後の世界は過去とみなされることから、月山は「過去の世を表す山」と言われます。

月山八合目には、極楽浄土を意味する弥陀ヶ原と呼ばれる湿原があります。ここでは、高山植物が咲き乱れ、また斜面を覆う万年雪から流れてくる冷気を感じます。その先の「行者返し」と呼ばれる急斜面や険しい岩場を越え、ようやく到達する山頂の「月山神社」に祀られる、夜を司る神(月読命)に死後の安楽と往生を願います。よく晴れた日で下界が雲海に遮られた時、月山の山頂では突然見事な光輪が仏の御来迎のごとく現れることがあります。この神秘的な現象に遭遇した人々は、月山は過去の山という思いを一層強めました。



月山の弥陀ヶ原湿原

「未来の世を表す山」～湯殿山～

湯殿山は、頂部からお湯の湧き出る赤色の巨岩である御神体^{ごしんたい}に新しい命を産み出す女性の神秘を重ね、全てのものを産み出す山の神（大山祇命^{おおやまつみのみこと}）が祀られたことから「未来の世を表す山」と言われます。



湯殿山の滝行を行う御滝

参拝者は、大自然の中で裸足^{はだし}になって御神体^{ごしんたい}に触れ、掌^{てのひら}と足の裏に伝わる地熱の温かさを大地のエネルギーとして体の中で受け止めます。また湯殿山は、斜面が大きく崩れたむき出しの岩肌や、点在する大小の滝など野性味あふれる自然の特徴を活かし、滝行^{たきぎょう}や御沢^{おさわ}駆けなどの「荒行^{あらぎょう}」が行われる行場でもあります。その苦しい修行は産みの苦しみを表すとも言います。湯殿山は訪れる者にまさに自然への畏怖^{いふ}と圧倒的な生命力を強く感じさせるので、人々はこの山に生まれかわりを祈ります。

今に息づく『生まれかわりの旅』

出羽三山を目指す人々は、山形県の内陸部と海岸部を結ぶ「六十里越街道^{ろくじゅうりごえかいどう}」と呼ばれる陸路や最上川舟運^{もがみがわ}を利用し、三山周辺に点在する「八方七口^{はっぽうななくち}」と呼ばれる登拝口^{とはいぐち}から登りました。江戸時代、菅笠^{すげがさ}と死者の衣装を意味する白装束^{しろしょうぞく}をまとった参拝者の列は、笠が波打つほどに連なつたと言われます。街道や関所、登拝口周辺には寺や賄い小屋^{まかな}が建ち、宿坊街が形成されて、地域に暮らす人々は、参拝者の旅の支度を整え、もてなすことを生業^{なりわい}としました。



中でも羽黒山麓^{さんろく}の手向地区^{とうげ}は、江戸時代には300を超す宿坊が営まれて大いに営む宿坊が参拝者を迎えます。山伏は、春から秋は参拝者を山に案内し、冬には東日本各地を回って出羽三山の御利益を広め、参拝者を呼び込むという活動を江戸時代から継続しています。

六十里越街道^{ろくじゅうりごえかいどう}伏^ふが

宿坊をはじめ、多くの民家の軒下には羽黒山の「松例祭の大松明行事^{しょうれいさい おおたいまつ}」で使われた引き綱が魔よけとして掛けられるなど、人々の暮らしと信仰の結び付きを見ることができます。



松例祭の大松明行事

手向の人々は、子どものころから、松例祭をはじめとする羽黒山で行われるお祭りに奉仕することや、参拝者に御祈祷^{ごきとう}をしたり三山を案内する大人の姿に触れる体験を通して、山伏や三山に対する信仰を身近なものとしながら育ちます。青年期には多くの男性が「峰入り^{みねい}」と呼ばれる山伏養成のための修行を重ね、山伏となって『生まれかわりの旅』を支えます。

また、宿坊でふるまわれる精進料理^{しょうじんりょうり}には地元で採れた山菜が豊富に使われ、旅人の身を清め、体調を整えます。それぞれの料理には「出羽の白山島^{でわ はくさんじま}（ごま豆腐）」「月山の掛小屋^{かけごや}（月山筍の油揚げ煮）」「祓川^{はらいがわ}のかけ橋（ふきの油煎り）」など三山の信仰にゆかりのある場所の名がつけられており、山伏が創作した食文化に触れることができます。精進料理の製法は、地元の食文化として発達し、今では家庭料理としても親しまれています。



出羽三山の精進料理

このように出羽三山を巡る『生まれかわりの旅』は、出羽三山信仰が日常の生活に深く根付いた地域に暮らす人々に支えられ、数百年の時を越えて今に息づいています。そして、自然の中に身を置き、自然の霊気や自然への畏怖を感じるこの旅は、訪れる者の心身を潤し、明日への新たな活力を与えます。

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	羽黒山 はぐろさん	未指定	羽黒山は、現在の世を生きる人々を救う仏が祀られ、出羽三山の中で里宮としての役割を持つことから「現在の世を表す山」と言われる。三山を巡る『生まれかわりの旅』の入り口。	鶴岡市
2	羽黒山蜂子神社 はちこじんじゃ	市有形 (建造物)	羽黒山の開祖とされる蜂子皇子を祀る神社。もとは開山堂であったが、明治7年(1874年)に蜂子神社と改めた。	鶴岡市
3	羽黒山の随神門 ずいしんもん	未指定	羽黒山の入り口。ここから先が神域とされる石段が始まる。明治の神仏分離令以前は仁王門と呼ばれた。	鶴岡市
4	羽黒山の石段	未指定	羽黒山の随神門から山頂まで続く 2446 段、約 2 km の石段。江戸時代に羽黒山の天宥別当(てんゆうべつとう)が寄進や浄財を集めて整備したと言われる。約 1 時間かけてゆつくりと杉並木や五重塔を眺めながら一の坂、二の坂を登り、途中、茶屋で一休みができる。最も急峻な三の坂を越えると山頂に着く。	鶴岡市

5	羽黒山のスギ並木	国特別天然 記念物	羽黒山の随神門から山頂の三神合祭殿 ^{さんじんごうさいでん} にいたる約 2 kmの羽黒山参道の両側にならぶ杉並木。総数 580 数株を数える。樹勢すこぶる旺盛なこの杉並木は、江戸時代、羽黒山中興の祖といわれる天宥別当の植栽によるものと伝えられている。	鶴岡市
6	羽黒山の爺スギ ^{じじ}	国天然記念物	羽黒山の随神門から山頂までの参道途中にある樹齢 1000 年以上ともいわれる杉の古木。根周り 10.5m、幹囲 8.25 m、高さ 43mに達する。杉並木以前から生育していたもので、羽黒山で最大にして最古のものである。	鶴岡市
7	羽黒山五重塔	国宝	承平年間（931～38）平将門の創建と伝えられ、現在の塔は応永 5 年（1372）頃に建立されたと言われている。屋根は日本古来の柿 ^{こけら} 葺 ^{がき} で三間五層の色彩を施さない素 ^{しら} 木造りという伝統的な手法による全国を代表する美塔の一つ。参道の途中にあり、参拝者の誰もが足を止めて拝まずにはいられない存在。	鶴岡市
8	羽黒山南谷 ^{みなみだに}	県史跡	羽黒山の石段参道を「三の坂」の手前で右折して約 400m進んだところにある史跡。江戸時代に羽黒山の天宥別当 ^{てんゆうべつとう} が壮大な客殿を造営させた。松尾芭蕉 ^{まつおげしょう} が奥の細道行脚の折に門人曾良 ^{そうら} と逗留 ^{とまりゆう} して「有難や雪をかほらす南谷」、「涼しさやほの三日月の羽黒山」と羽黒の情景を歌に詠んだ。	鶴岡市

9	羽黒山 <small>さいかん</small> 斎館	市有形 (建造物)	羽黒山の石段参道の「三の坂」を登りきったところにある。もとは華蔵院といい、かつて山内には 30 余の坊があったが全て取り壊される中で、明治の神仏分離の際に神社の「 <small>けっさいじょ</small> 潔斎所」として残った。往時の山伏たちが生活した遺構として今に残る唯一の建物である。現在は、三山参拝の参籠や食事処として、また羽黒山伏による「冬の峰」の参籠所として使用される。	鶴岡市
10	羽黒山 <small>さんじんごうさいでん</small> 三神合祭殿	国重文 (建造物)	羽黒山山頂にある社殿。羽黒山・月山・湯殿山の三山の神々を合祭しているので三神合祭殿と称している。雪に閉ざされる月山と湯殿山の参拝・祭礼を冬期間も行えるように <small>ごうし</small> 合祀している。本社は入母屋造、茅葺で、文政元年(1818)再建。本殿前の「御手洗池」は <small>かがみいけ</small> 鏡池と言われ、古くは「いけのみたま」とも呼ばれ、平安時代から銅鏡が奉納されている。	鶴岡市
11	<small>がつさん</small> 月山	国天然記念物	高く秀麗な姿から太古の昔より信仰を集め、「祖霊が鎮まる山」として「過去の世を表す山」と言われる。 <small>みだ</small> がは原湿原、 <small>ひがしふだらく</small> 東普陀落、 <small>ぶつしょういけ</small> 仏生池など信仰にまつわる地名が残る。	鶴岡市 西川町 庄内町
12	<small>がつさんじんじゃ</small> 月山神社	未指定	月山は「祖霊が鎮まる山」として信仰され、神社に祀られる祭神は月 <small>つくよみのみこと</small> 読命である。 <small>いにしえ</small> 古は本地仏として阿弥陀如来が祀られ、いずれも死後の世界を司る神仏である。7月1日の山開きから9月15日の閉山までの短期間しか参拝することができない。8月13日に例祭(<small>さいとうさい</small> 柴燈祭)が行われる。月の使者とも言われる兎に因み、卯年を御縁年とする。	庄内町

13	ゆどのさん 湯殿山	未指定	全てのものを産み出す山の神（大山祇命）が祭神として祀られ、「未来の世を表す山」と言われる。野性味あふれる自然が広がる湯殿山は、山伏が修行をする「行場」でもある。出羽三山参拝記念に建てられた「湯殿山碑」は東日本各地に数多く分布し、信仰域の広さを示す。	鶴岡市
14	ろくじゅうりげんかいどう 六十里越街道	未指定	出羽三山への参拝者が利用した街道。山形県の内陸部と海岸部を最短距離で結ぶ約 100 km の道。江戸中期から後期には湯殿山への参詣道として栄えた。地元住民による復元が進み、石畳や茶屋跡の石垣などが発掘されている。また、かつて参拝者を迎えた旅籠屋があった田麦俣地区や、山伏が滝行を行ったという「セツ滝」が街道沿いにある。	鶴岡市 西川町
15	旧遠藤家住宅	県有形 (建造物)	六十里越街道の途中、田麦俣地区には出羽三山への参拝者を迎えた旅籠屋があった。旧遠藤家住宅は、雪深いこの地域の生活を今に伝える茅葺屋根の寄棟 兎 造 の多層民家である。	鶴岡市
16	きよかわせきしよあと 清川関所跡	未指定	最上川舟運を利用した参拝者を迎えた関所であり、清川で舟を下り五所の王子（現御諸皇子神社）を拝して、鉢子集落から羽黒古道を経て、羽黒山に向かった。	庄内町

17	羽黒古道 <small>はぐろこどう</small>	未指定	蜂子皇子が羽黒山に登った場所と言われる鉢子集落 <small>はちこ</small> の登山口から羽黒山に至る古道。出羽三山を開山した蜂子皇子ゆかりの遺跡やマンサクなどの山野草が見られる。	庄内町
18	八方七口 <small>はっほうななくち</small>	未指定	出羽三山周辺に点在する登拝口 <small>とはいぐち</small> 。寺や賄い小屋が建ち、宿坊街が形成されて参拝者を迎えた。	鶴岡市 西川町
19	月山神社 出羽神社 湯殿山神社 摂社 月山出羽湯殿山三神社 社殿 <small>きゅうにちがつじほんどう</small> (旧日月寺本堂)	国重文 (建造物)	登拝口の一つ「岩根沢口 <small>いわねさわぐち</small> 」にある、月山・羽黒山・湯殿山の三神を祀る神社。嘉慶元年(1387)後小松天皇の時代に創建。その後三度の火災に遭い、天保12年(1841)に再建。桁行約65m、梁間約22mの長大な規模の建物。宿場集落としての面影も残されている。旅人はここで祈りを捧げ三山を目指す。	西川町
20	本道寺跡 <small>ほんどうじあと</small>	未指定	登拝口の一つ「本道寺口 <small>ほんどうじくち</small> 」にある別当寺(神社の祭司や管理を行う寺)。二十数軒の宿坊があった門前集落も「本道寺」と言い、庶民信仰の証である代参塔群が見られるなど出羽三山への参詣者でにぎわった当時の面影を残す。	西川町
21	本道寺代参塔群 <small>だいさんとうぐん</small>	町史跡	参拝が困難な信者が多額の寄進を行って住職に代参を依頼する信仰形態があったことを伝えるもの。その際、寄進額の一部を使って建立されたものが代参塔。	西川町

22	だいにちじあと 大日寺跡	町史跡	登拝口の一つ「大井沢口」 ^{おおいさわぐち} の別当寺。西川町大井沢集落にその跡を残す。「大井沢口」の中興の祖である道智上人 ^{どうちしやうにん} が大日寺に至る道智道と呼ばれる行者 ^{ぎやうじゃ} 道を整備したことから、関東、福島、置賜方面からの参拝者でにぎわった。	西川町
23	だいさんとうぐん 大日寺代参塔群	町史跡	参拝が困難な信者が多額の寄進を行って住職に代参を依頼する信仰形態があったことを伝えるもの。その際、寄進額の一部を使って建立されたものが代参塔。	西川町
24	だいにちぼうにおうもん 大日坊仁王門	県有形 (建造物)	登拝口の一つ「大綱口」 ^{おおあみくち} の別当寺である大日坊の仁王門。仁王門をくぐり大日坊にお参りしてから山に登る。大日坊は湯殿山行者の修行道場として繁栄した寺で、即身仏を安置している。	鶴岡市
25	大日坊の皇壇スギ	県天然記念物	登拝口の一つ「大綱口」 ^{おおあみくち} の大日坊の旧境内にそびえたつ杉の巨木。根周り約 8 m、幹囲約 6 m、高さ 27m、推定樹齢 1800 年。湯殿山へ向かう参詣道「六十里越街道」の要所にあり、修験者はこの杉に手をあわせ、修行の成就を祈る。	鶴岡市
26	ちゅうれんじ しめかけざくら 注連寺 七五三掛桜	市天然記念物	登拝口の一つ「七五三掛口」 ^{しめかけぐち} にある注連寺の境内に咲く樹齢約 200 年のカスミザクラ。湯殿山の御縁年の丑年にはひとりでに注連が掛かるという伝説がある。弘法大師がこの樹の下で修行したと言われる。花卉の色が咲き始めは白く、散り際になると深い桃色へと変化する神秘的な魅力があり、参拝者の目を楽しませる。注連寺は湯殿山行者の修行道場として繁栄した寺で、即身仏を安置している。	鶴岡市

27	とうげ しゅくぼうがい 手向の宿坊街	鶴岡市歴史的 風致維持向上 計画重点区域	出羽三山への参詣者のための宿坊街の一つ。かつては宿坊数 336 坊を誇った。明治時代の神仏分離政策以降に坊数は減少して現在は 30 数件となったが、昔と変わらぬ活動を続けており、往年の宿坊街の面影をよく残している。山伏が経営する宿坊では、参拝者に参拝の手順を教え、登拝の先達役となる。三山独特の精進料理を継承し提供している。	鶴岡市
28	しょうぜんいんこがねどう 羽黒山正善院黄金堂	国重文 (建造物)	羽黒山の門前町、手向地区にある山伏の修行の場。古くは羽黒山頂の大金堂（現在の三神合祭殿）に対し、麓の「小金堂」と呼ばれた。また、明治時代の神仏分離政策の際、大金堂の三尊像（聖観世音菩薩、阿弥陀如来、大日如来）は、正善院於竹大日堂に遷座された。於竹大日如来は、江戸と出羽国を行き来する山伏による出開帳などで広められ、江戸庶民を出羽三山に呼び込んだ。	鶴岡市
29	しょうれいさい おおたいまつぎょうじ 松例祭の大松明行事	国無形民俗	松例祭は、地元の手向地区から選ばれた「松聖」とよばれる 2 名の長老山伏が主役の祭りで、「冬の峰」100 日間の修行で得た験力が試される祭りでもある。「大松明行事」は、開祖蜂子皇子が悪鬼を退治して疫病を鎮めたという故事に由来する。悪鬼に見立てた大松明に放たれた火が柱のように立ち上り、宵闇を染めていく様は幻想的でもあり、こうして災厄は焼きつくされ山頂は新しい年を迎える。	鶴岡市

30	羽黒山の峰入り ^{みねいり}	未指定	<p>「峰入り」は、開祖^{はちこのおうじ}蜂子皇子の修行をたどる羽黒山伏の修行。「夏の峰」は三山を駆ける夏山登拝を意味する。「秋の峰」は、山伏養成を目的として約 1 週間の山籠りを中心とする修行を行うなど、日本で唯一本来の山伏修行の形を伝えると言われる。「冬の峰」は 100 日間の参籠修行で、100 日目の満願の日にあたる大晦日に羽黒山山頂で毎年行われる「松例祭」では、修行で得た^{げんりき}験力を披露する。羽黒山では今もなお、多くの修験者が修行し、出羽三山神社「秋の峰」には約 150 名が、1993 年、開山 1400 年を機に女性を対象として創設された「^{みこ}神子修行道場」という山伏修行には毎年 60～70 名が参加している。</p>	鶴岡市
31	出羽三山の精進料理 ^{しょうじんりょうり}	未指定	<p>出羽三山の精進料理は、月山などの奥深い山で生活するために「生きるための食」として山伏が創作し継承されている。必要な食材を山の恵みとして採集し、食材の乏しい厳しい冬を乗り越えるために、あく抜きや水煮といった時間と手間のかかる調理方法や保存技術が編み出された。出羽三山に参拝する者は、精進料理をいただいて身を清め、山へ向かう準備を整える。</p>	鶴岡市

構成文化財の写真一覧

①羽黒山（神橋と祓川）



④羽黒山の石段（2， 4 4 6 段）



②羽黒山蜂子神社



⑤羽黒山のスギ並木



③羽黒山の随神門



⑥羽黒山の爺スギ



⑦国宝 羽黒山五重塔



⑩羽黒山三神合祭殿



⑧羽黒山南谷



⑪月山



⑨羽黒山 齋館



⑫月山神社



⑬湯殿山（滝行を行う御滝）



⑯清川関所跡



⑭六十里越街道



⑰羽黒古道



⑮旧遠藤家住宅



②④大日坊仁王門



②⑦手向の宿坊街



②⑤大日坊の皇壇スギ



②⑧羽黒山正善院黄金堂



②⑥注連寺 七五三掛桜



②⑨松例祭の大松明行事



⑩ 羽黒山の峰入り



⑪ 出羽三山の精進料理

